

最新作

2015年11月、大橋可也 & ダンサーズの最新作をシアター X (カイ) にて上演!

ウィリアム・シェイクスピアの最後の戯曲『テンペスト』を題材に、

戯曲の言葉に、暗黒舞踏にもとづいた振付が挑みます。

出演者には、朗読デュオなどで声と文字と演奏の関係を追究している大谷能生と吉田アミ、

国内外で活躍するダンサー・今津雅晴、チェルフィッチュの看板俳優・山縣太一らを迎えます。

大橋可也&ダンサーズの最新作を、ぜひ多くの皆さまにご高覧いただきたくご案内申し上げます。

大橋可也 & ダンサーズ テンペスト

振付・構成・演出

大橋可也

正木悠太

後藤海春

後藤ゆう

檀上真帆

阿部遥

山縣太一

今津雅晴

皆木正純

吉田アミ

大谷能生

キャリバン 或いはミランダ

エアリエル

プロスペロー

10.8 [木]

チケット販売開始

2015.11.6 [金] → 8 [日]
東京・両国 シアター X カイ

極北のダンスカンパニー大橋可也&ダンサーズ、次なる挑戦はウィリアム・シェイクスピア最後の戯曲『テンペスト』。

言葉を疑い身体を取り戻す。

dancehardcore.com

テンペスト

近代科学革命の予感が漂い、アメリカ新大陸の植民地経営が本格化した時代の英国で書かれた『テンペスト』は、シェイクスピア最後の単独作品だ。

たくらみによりミラノ大公の地位を奪われ、孤島に流された主人公プロスペローは、研究の果てに身に付けた魔術をもって仇敵に復讐をする。彼の復讐は、妖精エアリエルを操って嵐を起し、仇敵である彼の弟やナポリ国王らを乗せた船を難破させることから始まる。

まずは政略婚。プロスペローの仕掛けによって、娘のミランダとナポリの皇太子ファーディナンドは惹かれ合い、愛を誓う。その上で、エアリエルの力で次々と怪現象を起こして仇敵を懲らしめる。彼の計画にとって想定外だったのは、怪物キャリバンの反抗だ。プロスペローから言葉を教えられることで手なづけられ、挙句には、奴隷のように使われていたキャリバンは、新たな主人を見つけてプロスペローの打倒を夢見るようになる。

主人公は無事に復讐と和解を果たすが、争いを象徴するチェスで無邪気に遊ぶミランダとファーディナンドの姿には、その実、親世代に続く権力争いの影が差しているのかもしれない――。

(ドラマトウルク・山本博士)

大橋可也

『テンペスト』の主人公プロスペローがふるう魔術は、言葉によって支えられ、あらし＝自然現象を制御する。その言葉と科学技術の万能性への信仰は、日本人に長年染み付いてきた原子力への信仰につながっている。その信仰を終わらせた福島第一原発の事故をアンダー・コントロールと表明し、東京にオリンピックを招致した安倍総理大臣も、やはり魔術の使い手だろう。かつて元の軍勢から日本を救った「あらし」は、転じて、先の大戦では神風特攻隊となり、多くの若者の身体を奪った。そのコンセプトとイメージは、世界中に輸出され、今も多くの武装勢力に引き継がれている。これも魔術の成れの果てであろうか。僕たちの身体は、言葉によって定義され、支配されている。戯曲の登場人物のように。魔術からさめ、言葉から身体を奪い返すこと、それが、僕たちの『テンペスト』が目指すことなのだ。

今週末『テンペスト』ワークショップ開催!

『テンペスト』ワークショップ

2015.9.5(土) 6(日) 18:30-21:30

森下スタジオ S (江東区森下3-5-6)

東京都江東区森下3-5-6

地下鉄都営新宿線、都営大江戸線森下駅 A6出口 徒歩5分

東京メトロ半蔵門線、都営大江戸線清澄白河駅 A2出口 徒歩10分

料金：2000円

本公演に先立ち、その創作のプロセスを共に体験できるワークショップを開催します。大橋可也&ダンサーズとしても、1年ぶりのワークショップです。あらたな作品が生まれる現場に、どうぞお立会いください。

プレ・イベント「あらしの前に」

2015.10.9(金) 19:30

pit 北/区域

北区王子1-13-18

JR京浜東北線王子駅北口徒歩5分

東京メトロ南北線王子駅5番出口徒歩1分

出演：大谷能生、吉田アミ、大橋可也、ほか
トークゲスト：特別ゲストを予定、近日発表します。
料金：2000円
協力：東京パピロン

大橋可也 & ダンサーズ

大橋可也 & ダンサーズ (おおはしかくやあんどだんさーず)
1999年結成。ハードコアダンスを提唱し、暗黒舞踏に基づく独自の方法论によって現代社会における身体を探索している。2008年に発表した『帝国、エアリアル』では、関連するフリーペーパーを制作、配布。2013年、日本SF界を代表する作家、飛浩隆による長編小説『グラン・ヴァカンス』をダンス作品化、発表した。江東区を舞台にしたリサーチに基づくプロジェクト『ザ・ワールド』を進行中。



大谷能生

大谷能生 (おおたによしお)
1972年生まれ。音楽(サックス・エレクトロニクス・作編曲・トラックメイキング) / 批評(ジャズ史・20世紀音楽史・音楽理論)。96年~02年まで音楽批評誌「Espresso」を編集・執筆。菊地成孔との共著『憂鬱と官能を教えた学校』や、単著『貧しい音楽』『散文世界の散漫な散策 二〇世紀の批評を読む』『ジャズと自由は手をとって(地獄に行く)』など著作多数。音楽家としてはsim、mas、JazzDommunisters、呑むズ、蓮沼執太フィルなど多くのグループやセッションに参加。ソロアルバム『「河岸忘日抄」より』、『舞台のための音楽2』をHEADZから、『Jazz Abstractions』をBlackSmokerからリリース。映画『乱暴と待機』の音楽および『相対性理論』と大谷能生』名義で主題歌を担当。東京デスロック、中野茂樹+フランケンズ、岩淵真太、鈴木ユキオ、室伏鴻ほか、演劇やダンス作品への参加も多い。近作は『マームとジブシーと大谷能生』、入江陽『仕事』(プロデュース)など。2015年6月に初舞台主演作品となる『海底で履く靴には紐がない』(山縣太一作・演出・振付)を上演。2015年8月に『デジタル・ディスレクシア』(吉田アミ、か、大谷能生名義)発表。

吉田アミ

吉田アミ (よしだあみ)
音楽・文筆・前衛家。1990年頃より音楽活動を開始。2003年にソロアルバム『鹿嶋』をリリース。同年、Utah KawasakiとのユニットastrotwinとSachiko.MとのユニットcosmosのCD『astrotwin+cosmos』がアルスエレクトロニカデジタル・ミュージック部門のグランプリにあたるゴールドディスクを受賞。文筆家としても活躍し、小説やレビュー・論考を発表。著書に『サマースプリング』(太田出版)、小説『雪ちゃんの言うことは絶対。』(講談社)がある。2015年、第19回『TOKYO ポエック』に吉田アミ × 虹釜太郎初の共著詩を発表。「吉田アミ、か、大谷能生」名義で朗読と音楽を中心にしたユニットでも活躍し、小説『Red:』(未発表)を元に初のオリジナル舞台作品『デジタル・ディスレクシア』では作・音楽・演出を手がけた。



大橋可也&ダンサーズ テンペスト公演情報

2015.11.6 (金) 19:30
2015.11.7 (土) 14:00 / 19:00
2015.11.8 (日) 14:00
【会場は開演の30分前】

【料金】
一般：3500円
U29 (29歳以下)：3000円
当日：4000円
全席自由・整理番号付き

【チケット取扱い】
大橋可也&ダンサーズWebサイト
<http://dancehardcore.com/>
チケット発売日：10/8 (木)

主催：一般社団法人大橋可也&ダンサーズ
助成：芸術文化振興基金
協力：公益財団法人セゾン文化財団
平成27年度(第70回)文化庁芸術祭参加公演

【Staff】
ドラマトウルク：山本博士
映像：石塚俊
舞台美術：大津英輔+鴉屋
衣装：ROCCA WORKS
照明：遠藤清敏(ライトシップ)
音響：牛川紀政
舞台監督：原口佳子(モリブデン)
広報：及位友美・新井慶太(一般社団法人ノマドプロダクション)
制作協力：古郡稔、小松杏里



会場：東京・両国シアターXカイ
墨田区両国2-10-14 両国シティコア
JR総武線両国駅西口徒歩3分
都営地下鉄大江戸線両国駅A4・A5出口徒歩8分